

議会広報編集委員会行政視察報告

*視察日・・・平成25年5月13日～14日

*視察先・・・全国市議会議長会 東京都あきる野市

【全国市議会議長会】 全国の議会だよりの 特徴的な事例

川崎市の「議会カレンダー」、延岡市の「5分でわかる議会のしくみ」浦添市の「議会活動この1年」など、イラストや数字を用い、議会活動の1年の流れが分かり易く表現しておりました。

全国の議会だよりを直接見ることができ、色の使い方、独自イラストの多用化や、インパクトのある表紙写真や題字の工夫など、大変参考となる内容でありました。

【あきる野市議会】 議会だよりリニューアルに向けた取り組み

リニューアルに向け議員3名、職員1名による編集委員会を組織し検討に着手、市民アンケート等を実施しました。リニューアルの到達点は「議会だよりを見る市民を増やすため、手に取ってもらえる表紙づくり」「気づきを与える表現方法や読みやすさの工夫」とし検討を行いました。またデザイナーによるアドバイスとして、①導線②ホワイトスペース③統一感 があげられておりました。また特集を組むことによりターゲットを絞ることも大事であるとのことで、表紙写真と次面の特集がリンクしているという紙面構成となっておりました。

今回の視察をとおし、議会広報のスタイルやデザインは、日々進化することを認識し、住民にとって簡単で分かりやすい紙面にする気持ちで編集することが大切であると強く感じてまいりました。



あきる野市議会

総務常任委員会行政視察報告

*視察日・・・平成25年5月21日～23日

*視察先・・・埼玉県富士見市 東京都日野市 静岡県富士宮市

【富士見市】 市民判定人方式による 事業仕分けの実施について

現市長のマニフェストに基づき、平成21年度と23年度に「無作為抽出による市民判定人による事業仕分け」を実施しています。事業仕分けは、コーディネーター1人、仕分け人5人、市民判定人10数人という体制で行われ、担当課による概要説明、仕分け人による質疑・議論、市民判定人が挙手により判定、コーディネーターからの判定結果発表、市民判定人1～2名からコメントという順序で進められます。

事業の評価としては、市民判定人の9割が事業仕分けに参加してよかったと回答しており、事業仕分けの目的である、市民との情報共有や行政改革の推進はある程度達成できたとのことでしたが、その反面、判定が仕分け人の考え方に大きく影響されるため、行政運営上廃止できないものが廃止の判定を受けたり、仕分けを行う事業の選択が難しいなどの問題点もあり、今年度の実施については検討中とのことでした。

【日野市】 土地活用推進事業について

平成21年4月1日に土地活用推進室という組織を新設し、それまで土地の売却に関してバラバラだった組織をひとつにし、土地の売却と活用を専門に行っています。

公用車すべてに「日野市が土地を売っています」というマグネットシートを貼付することから始まり、住宅展示場でのキャンペーン、新聞折込みとポスティング、市内イベント等でのブース出店など、さまざまな形でPR活動を行いました。

また、職員は、「公務員の殻を破り、民間の不動産業者と渡り合える位の知識を身につける」との市長の指示のもと、業務の役割分担を明確にするとともに、専用の携帯電話による土日の対応もしておりました。

とにかく一箇所でも多く土地を売ろうという前向きな姿勢が強く感じられました。

【富士宮市】 公共交通システムについて

利用者が少なく費用対効果が疑問視されていた民間バス路線を廃止し、病院や買い物などに利用できるよう、医療機関、集客施設、公共施設を循環する「宮バス」の運行を平成20年度から開始しました。

路線選定や運行形態の検討は、要望の強かった地域から選出した市民や交通事業者が参画しての調査会で行われましたが、調査会を何度も開催することにより、自分たちの公共交通は自分たちでつくるという意識が芽生え、自らアンケートの内容を考えたり、バス停オーナーの勧誘にも足を運ぶなど、市民参画による公共交通の確立が図られたとのことでした。

運行はタクシー業者に依頼し、セダン型のタクシーを利用、宮タクの業務以外は一般タクシー事業に使用できるものとなりました。また、料金はバス並とし、ドア・ツー・ドアのサービス、完全予約制、途中下車禁止など、利用者と事業者双方に配慮した仕組みとなっていました。



富士宮市